

江戸の娘  
古  
年七  
五

夜  
更  
の  
時

上  
皇  
様

五  
斎

~13  
3836  
16



歌川國貞画

万亭應賀作

安政三年

丙辰初春

開鐫

倭文庫三拾七編



上

阿へ13  
 3836  
 16

釋迦八相倭文庫

三拾七編上

丙辰新刻

万亭

應賀作

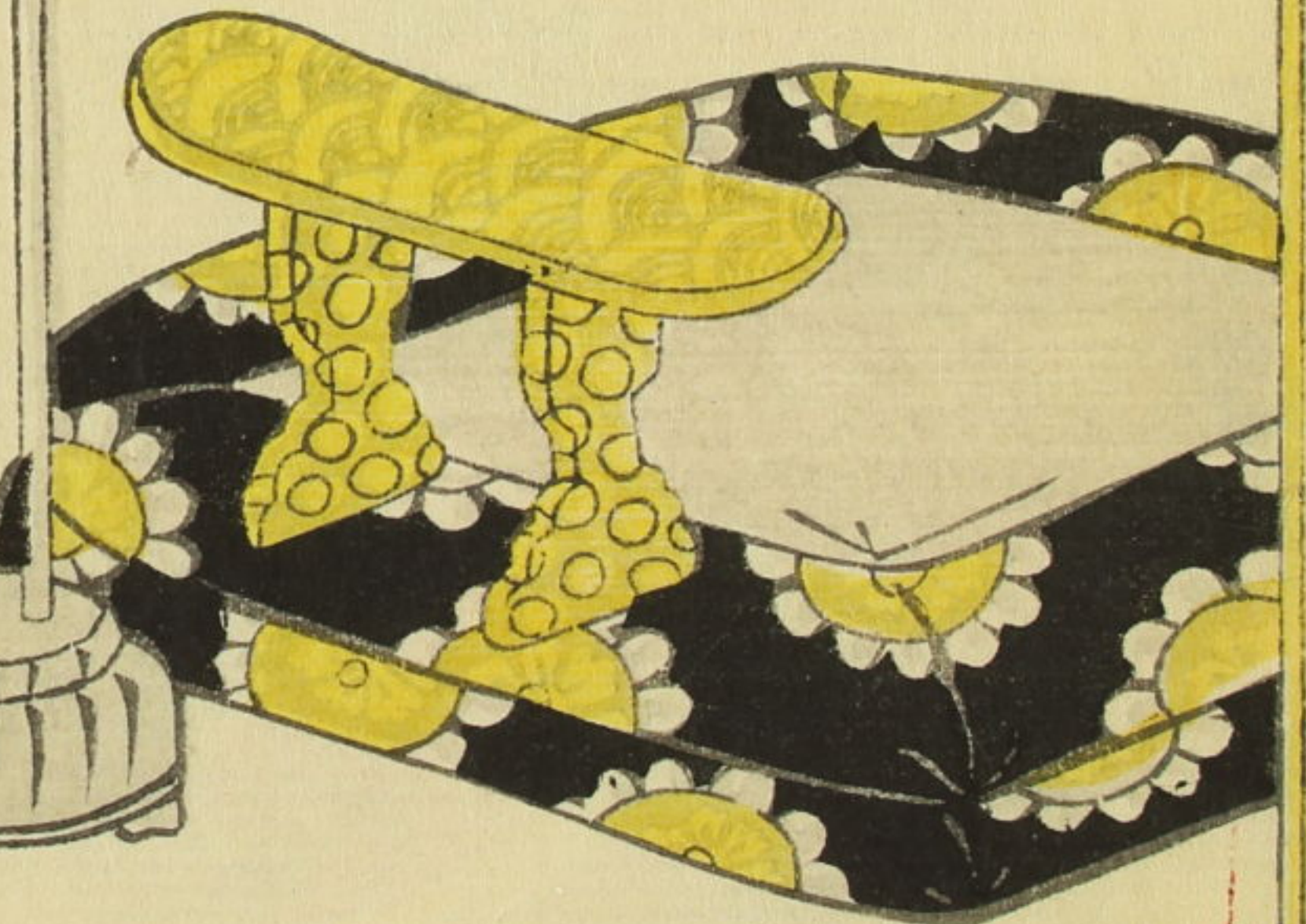
歌川

國貞画



江戸人形町通

上州屋重藏版



釋迦八相倭文庫三拾七編叙

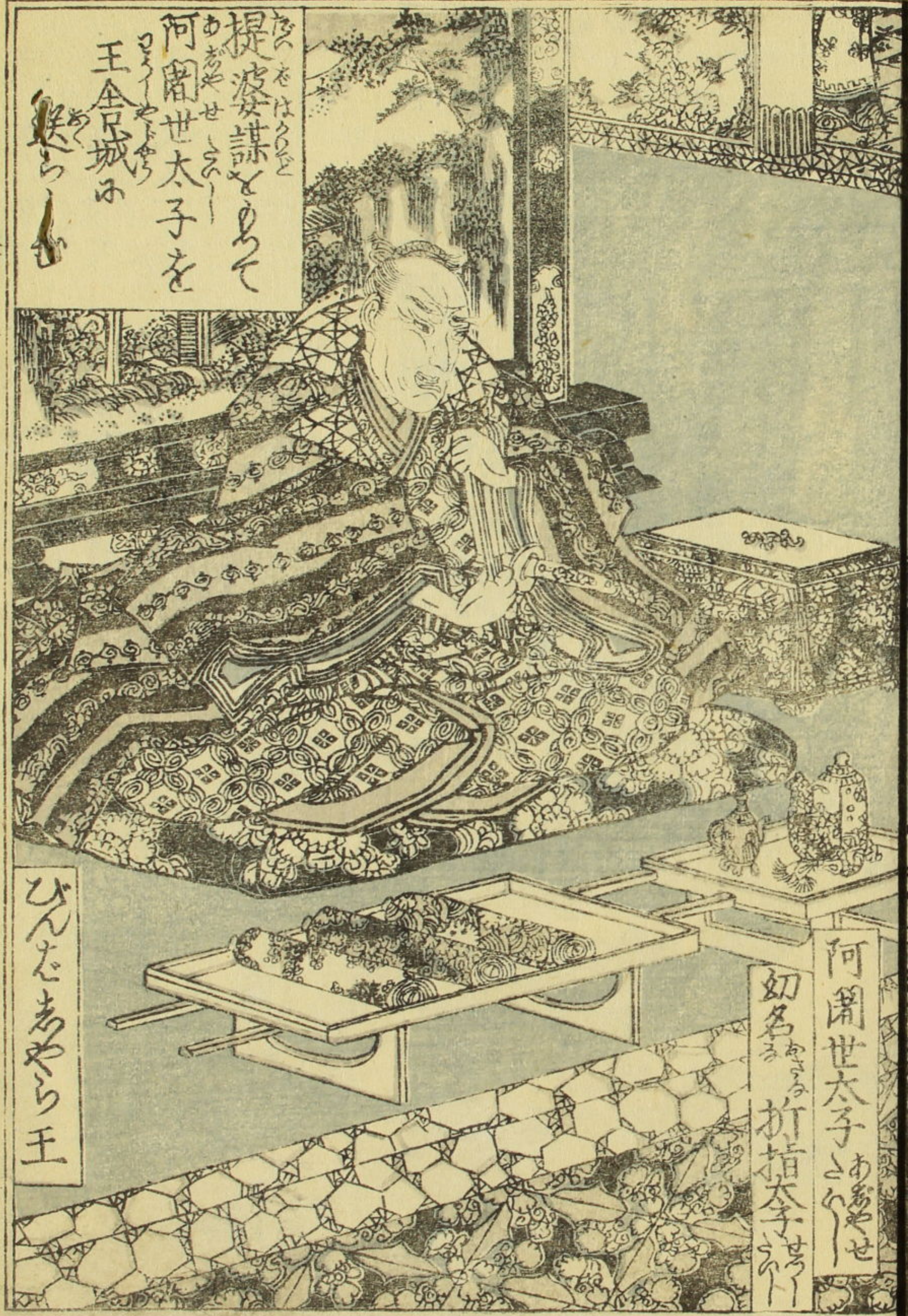
夫佛を如來と云へ便漢語より梵語の多他識と云ふ  
 義如來と翻して如去と云ふ凡位より修行して正覺と成  
 來をいふて如來と申す余は如去と云ふ自證如來と云化他  
 の義を欲とれら陳フン和漢ノ院を如去と云ふ序の白ま  
 の恥と元且み生まふ似るも春毎の吉例ハ虧とを添むる  
 も変ぬ盡我愛中旧冬のもの履惚貞と拭いもあま費  
 三尸ふと我

安政四年  
 丁巳孟陽

万亭應賀述



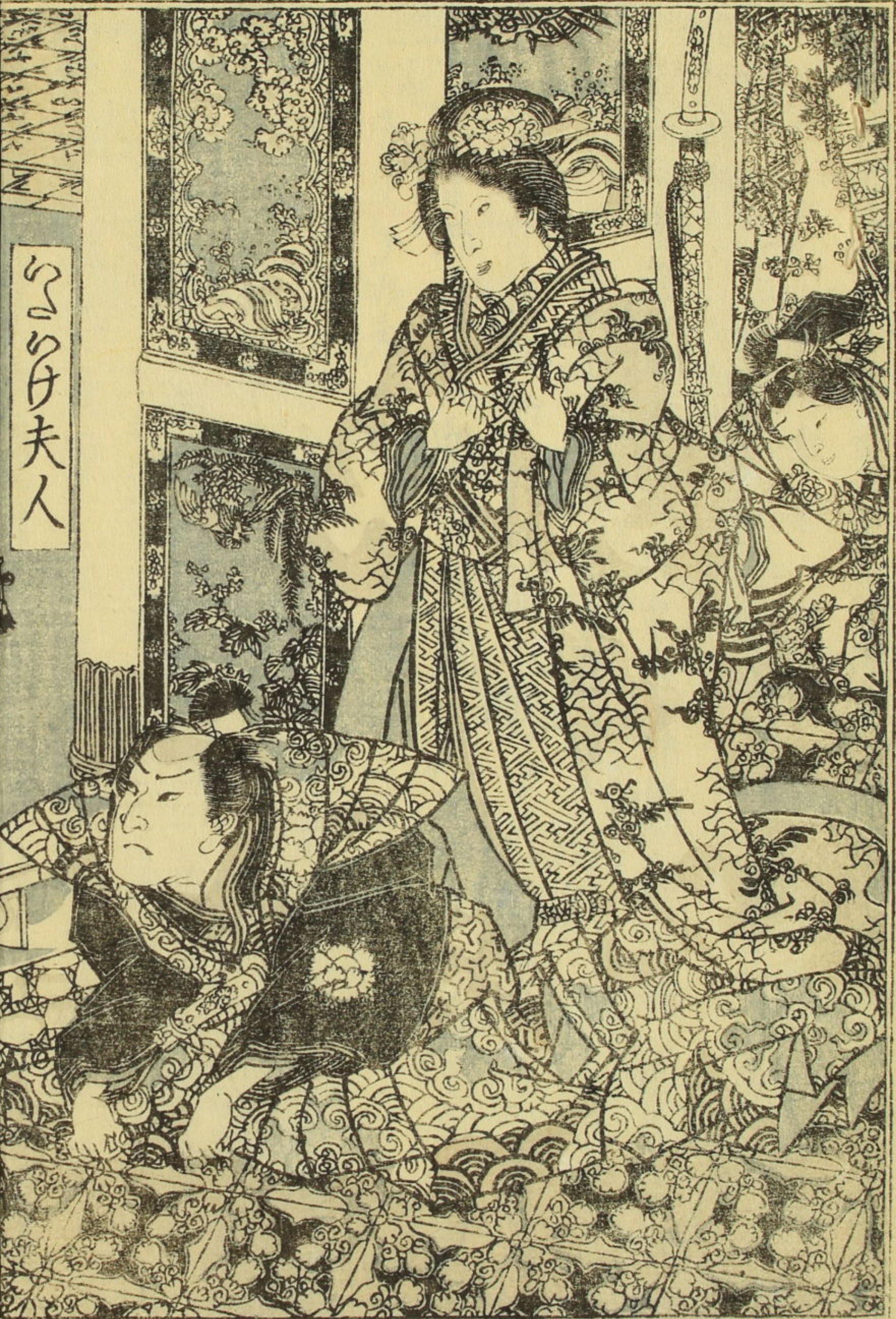
倭文庫七二



提波謀とて  
阿闍世太子を  
王金尼城の  
送ら

びんたあやら王

阿闍世太子  
幼名折指李



ののけ夫人

作の屋カ

中よりうてん  
如未切利天  
上方七故摩耶夫人  
小逢五人

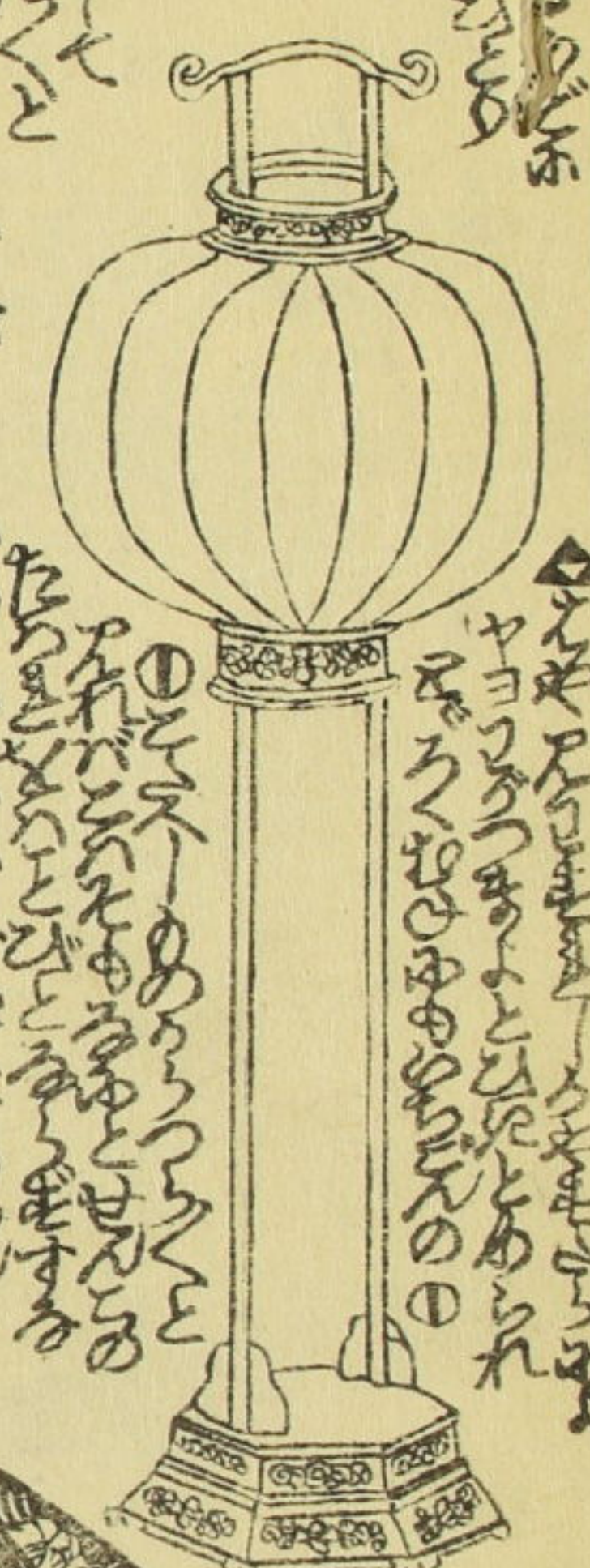
故摩耶夫人



如未切

帝親天王

トモはしむらん  
たてまつらん  
たてまつらん  
たてまつらん  
たてまつらん



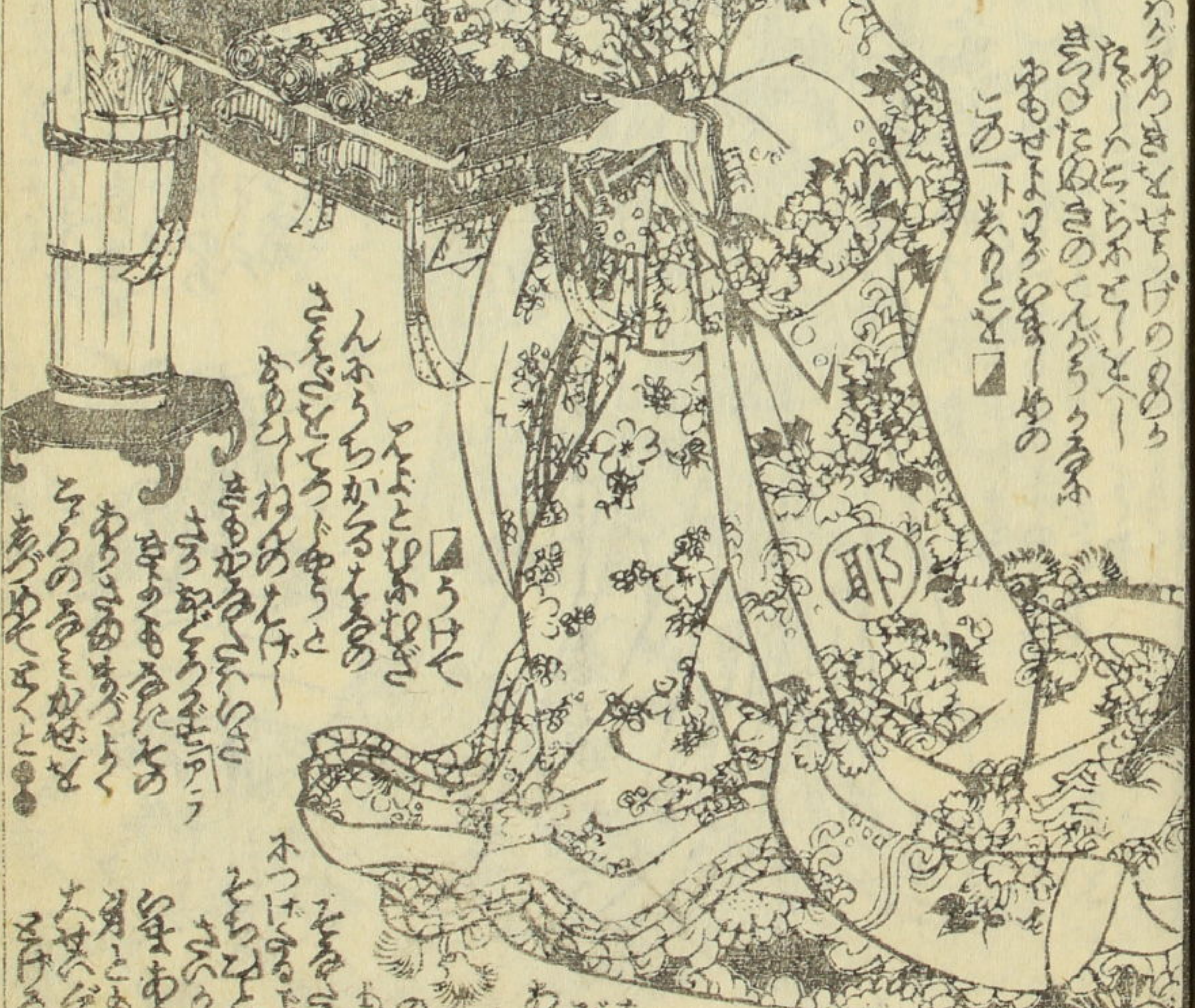
よめいふくつと  
あつちのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと

あつちのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと

あつちのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと



あつちのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと



あつちのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと  
つらのつらと

ついでに...  
わが身をたぐりて...  
その身をたぐりて...  
ほろろと身をたぐりて...  
あはれとて身をたぐりて...

九十九...  
九十九...  
九十九...  
九十九...  
九十九...



みづから...  
みづから...  
みづから...  
みづから...  
みづから...

みづから...  
みづから...  
みづから...  
みづから...  
みづから...

あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...

あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...



あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...  
あつち...

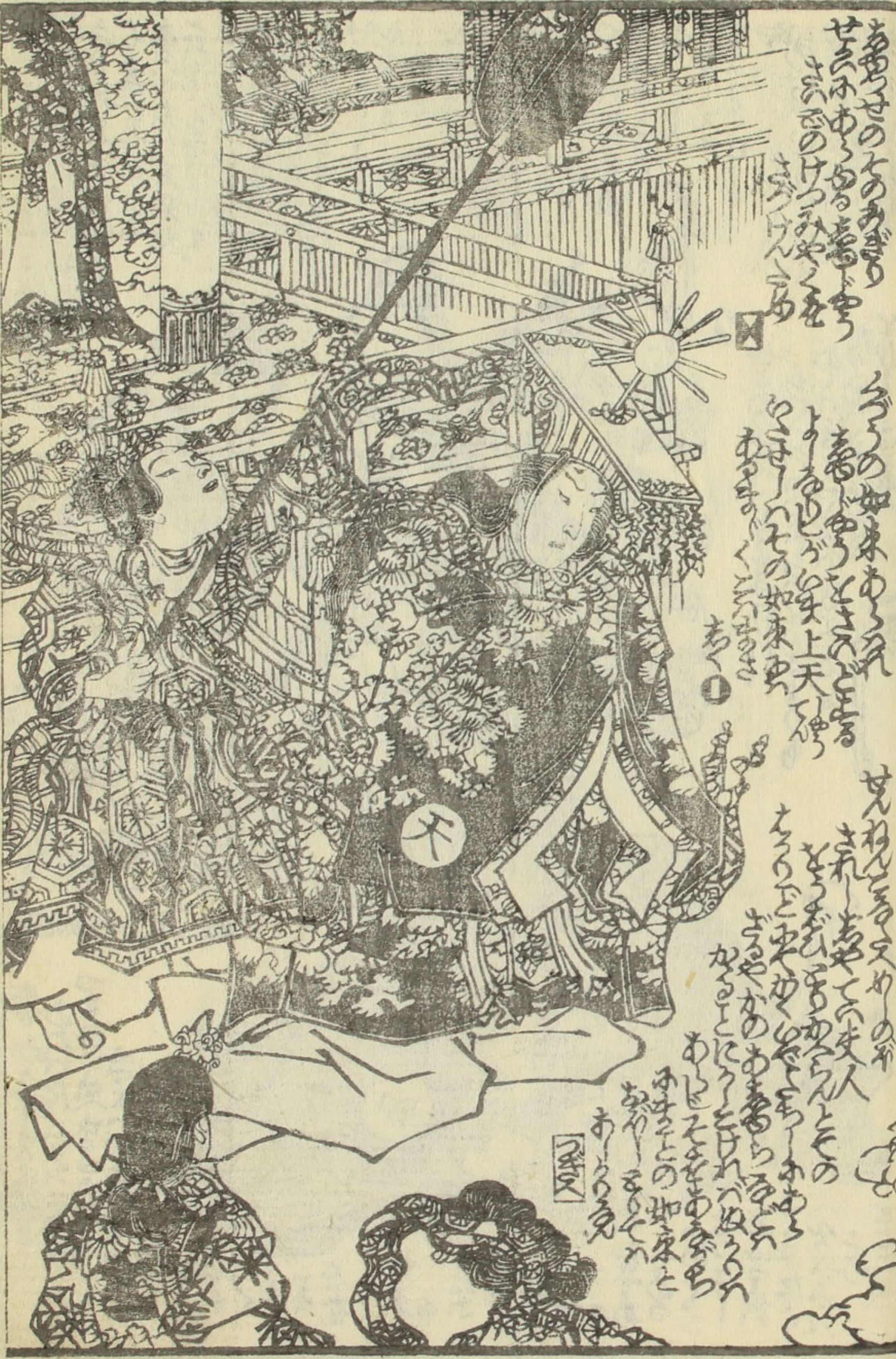






この国は上  
の国にさうさ  
まの国にさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ  
よとのさ

二ツの  
月を  
せんが  
まはら  
たを  
の  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま



あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて

あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて

あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて

あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて  
あつて

上りくめをかんてふ  
りふきやうきものし  
るいこたがくまのう  
てさきの天上の  
あふりあふり  
さむいさむい  
あむいさむい  
六所敷の降は  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり



あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり

あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり



あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり  
あふりあふり



如來小持  
一もて三つはさしなむ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ

○いれをよみて  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ



○ひるあり  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ  
あふれいんよぶそそふ

安政四年丁巳新春新板目錄

倭文庫

三十七編

三十八編

万亭 應賀作  
陽齋 豊國画

蓮の井菱漆別小紋

七編 八編

為永 春水作  
同 金水画

昔語山栗實説

二編 三編

松亭 金水作  
同 柳亭彦画

花山吹貝女郎

二編 初編

柳亭 彦画

大寶御江戸圖

極上摺 奉書六枚半續

常磐津懷中本

初編 二編 三編 四編

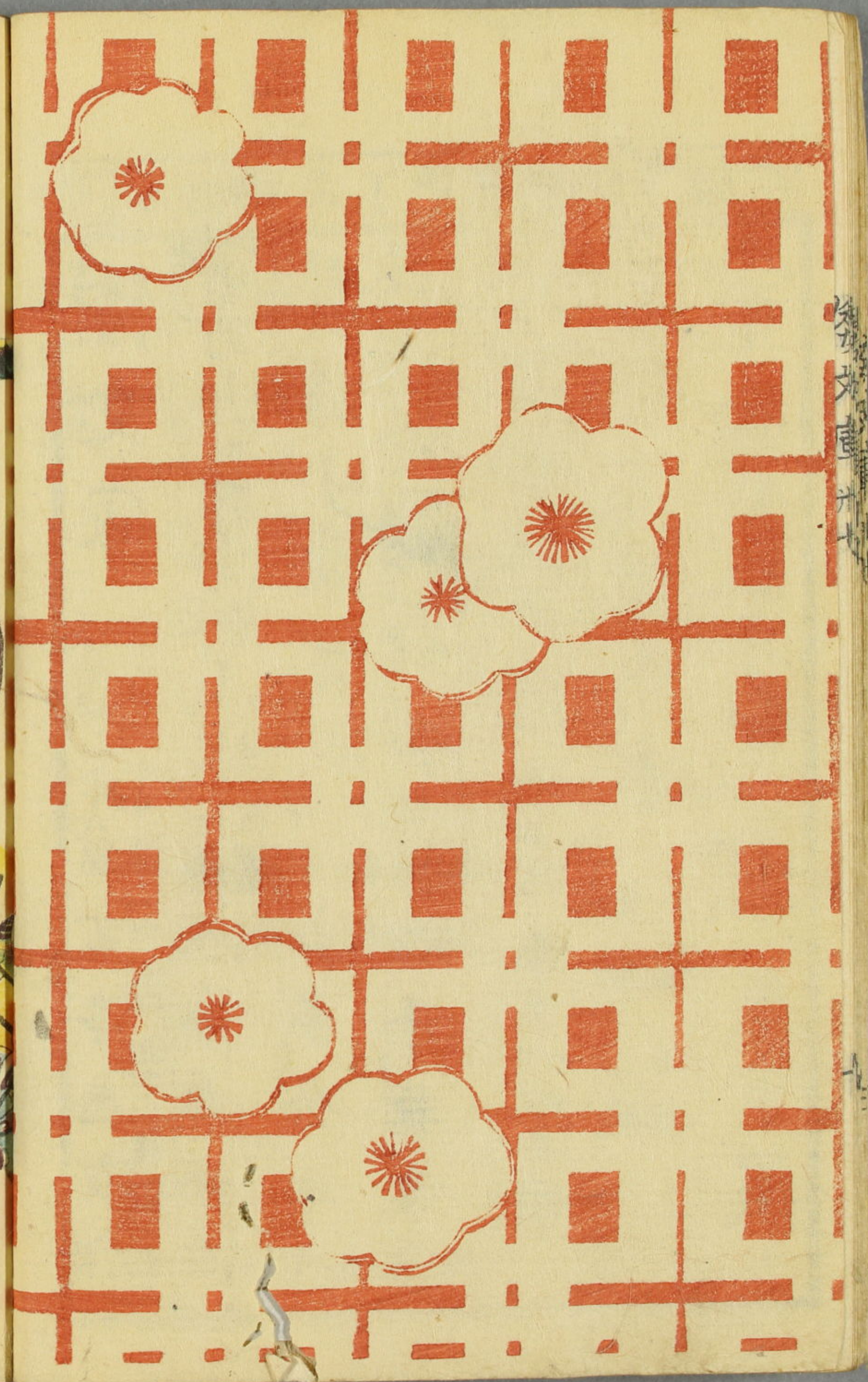
金重繪州紙本類

上州屋重藏



非題曲五因急

錦重堂板



錦重堂板

辰未也

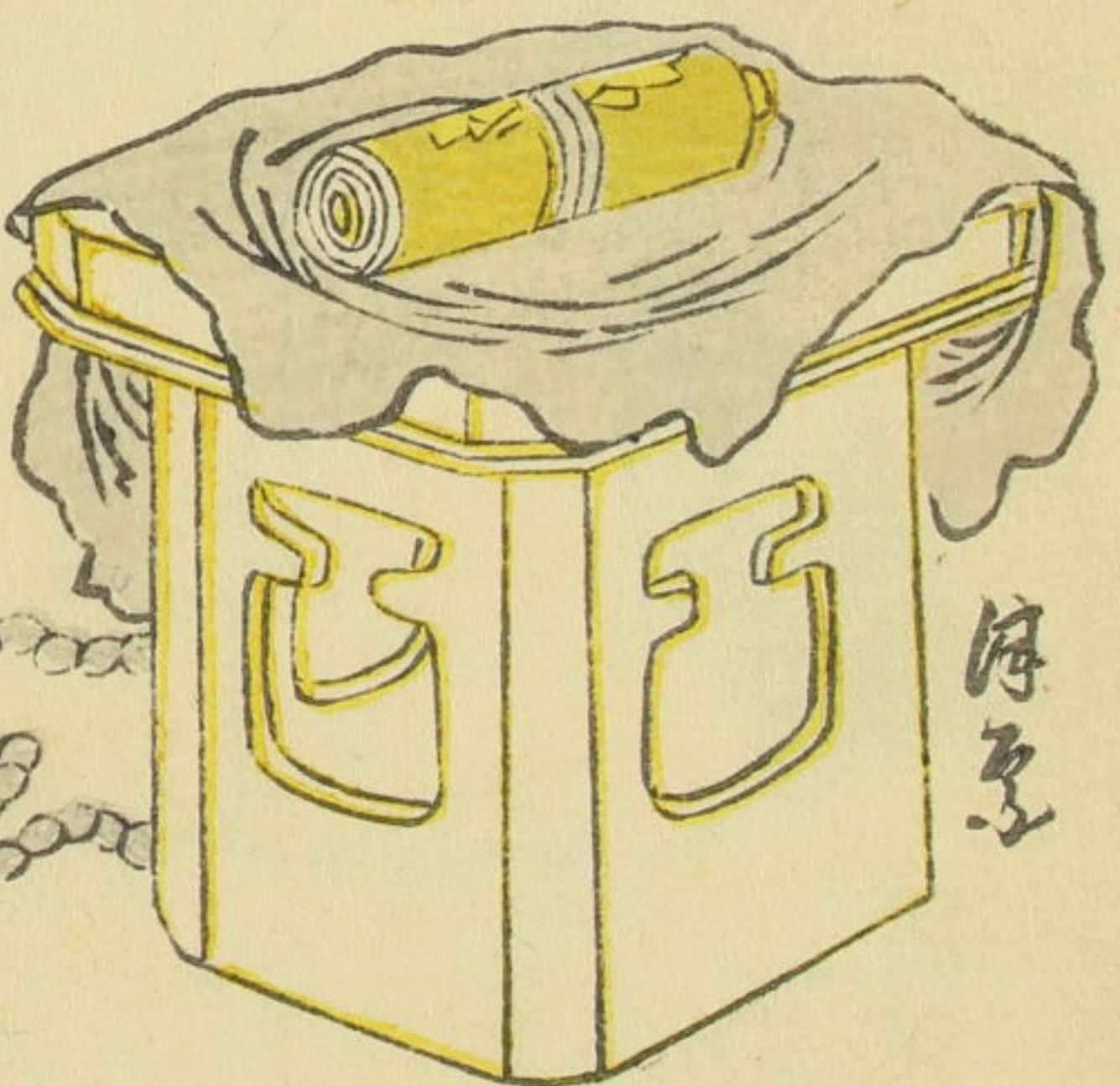
婦む六

字七海下

鹿賀作

國員画

えん 屋 せん



同屋

三

上段の...  
てんくの...  
辰未也の...  
...



...

十一



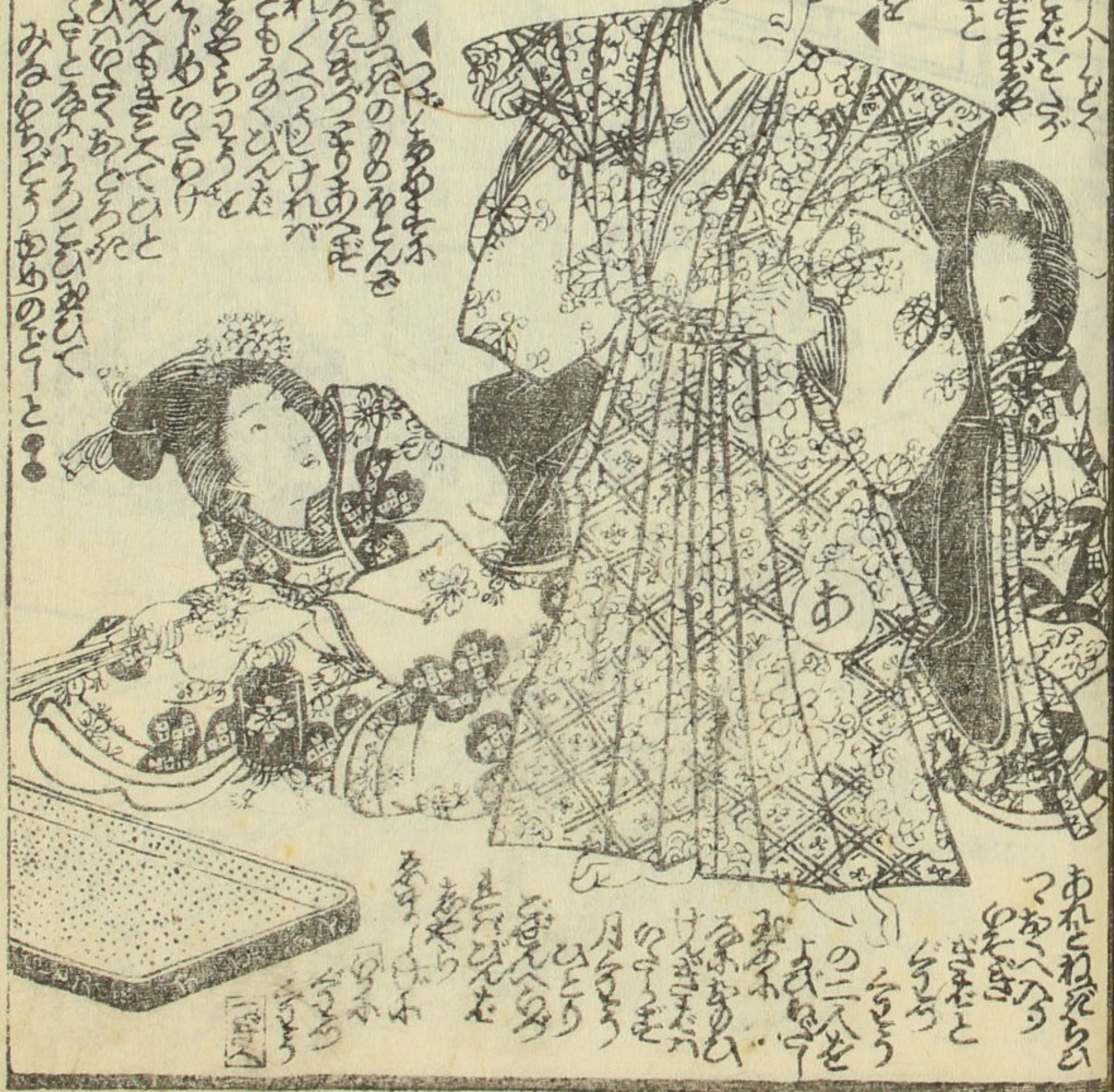




此の物語は、天下の大名や武士の争ひ、そして百姓の苦しみなど、幅広い範囲で展開されています。ここでは、戦場の様子や、重要な人物の登場、そして物語の主要なテーマが描かれています。各コマの描写は、当時の生活様式や武具、そして人情味あふれるシーンが数多く見られます。



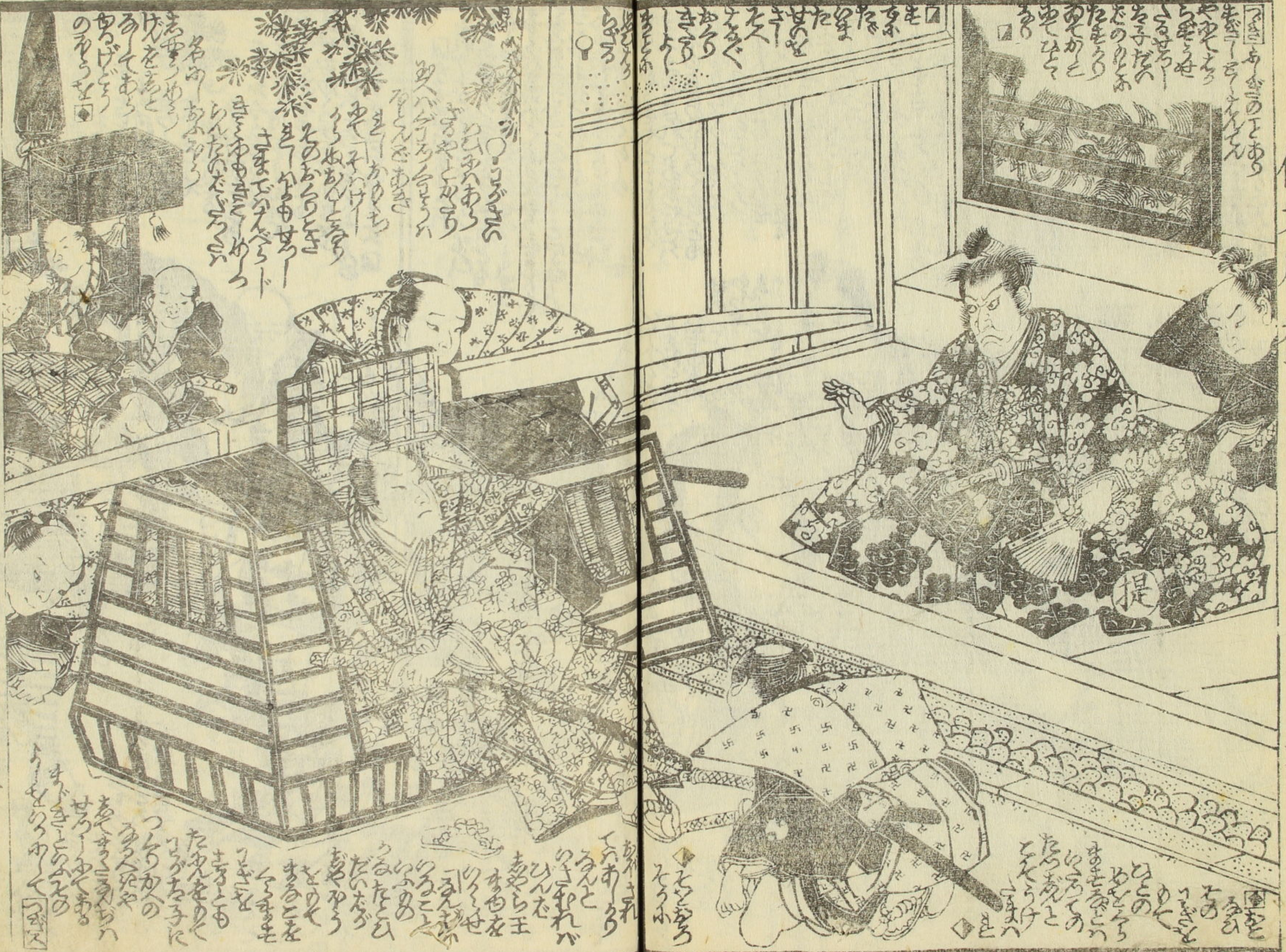
この物語は、戦国時代を背景にしたもので、英雄の活躍や、国家の興亡が描かれています。ここでは、戦場の様子や、重要な人物の登場、そして物語の主要なテーマが描かれています。各コマの描写は、当時の生活様式や武具、そして人情味あふれるシーンが数多く見られます。



七  
八

ついでに金の下あり  
生かしてやうせん  
やあてとち  
らあてとち  
さうせり  
さうせり  
さうせり  
さうせり  
さうせり  
さうせり

まき  
たき  
きり  
きり  
きり  
きり  
きり  
きり  
きり  
きり



○いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん  
いんちん

あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり

あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり  
あつさり





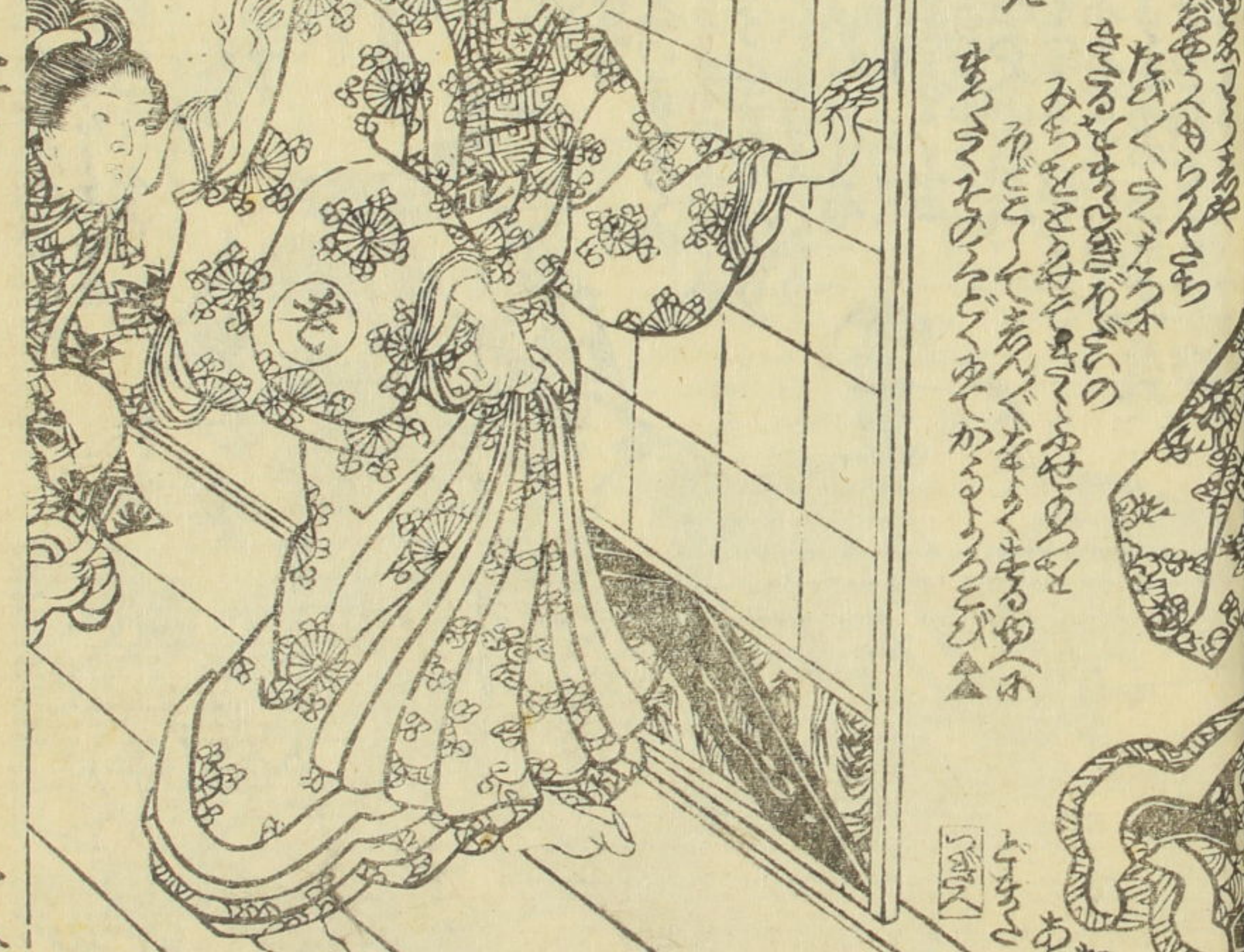
ちりやういんかてん  
 のうらふれけはるるちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん

ちりやういんかてん  
 のうらふれけはるるちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん



ちりやういんかてん  
 のうらふれけはるるちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん

ちりやういんかてん  
 のうらふれけはるるちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん



ちりやういんかてん  
 のうらふれけはるるちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん  
 ちりやういんかてん  
 まさしくあはれやういんかてん







安政四年丁巳新春新板目錄

倭文庫出世双六

万亭 應賀作  
一陽齋 豐國 画

春の将棋双六

同 歌川貞房 画

男女役替双六

同 一陽齋 豐國 画

武家奉公出世双六

同 同 画

奥奉公出世双六

同 同 画

極上摺擬百人一首百枚揃

一陽齋 豐國 画  
一勇齋 國芳 画

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半續

端唄六汐の竹

小本上中下の三冊不仕立のものを  
あつらひて紙に写しおぼろ紙に  
をきりてくはくはるるさきさき  
の好む方

倭文庫 卅七

應賀作

此の書は... (Vertical text describing the book's content and authorship, including names like 萬亭, 一陽齋, etc.)

國貞画



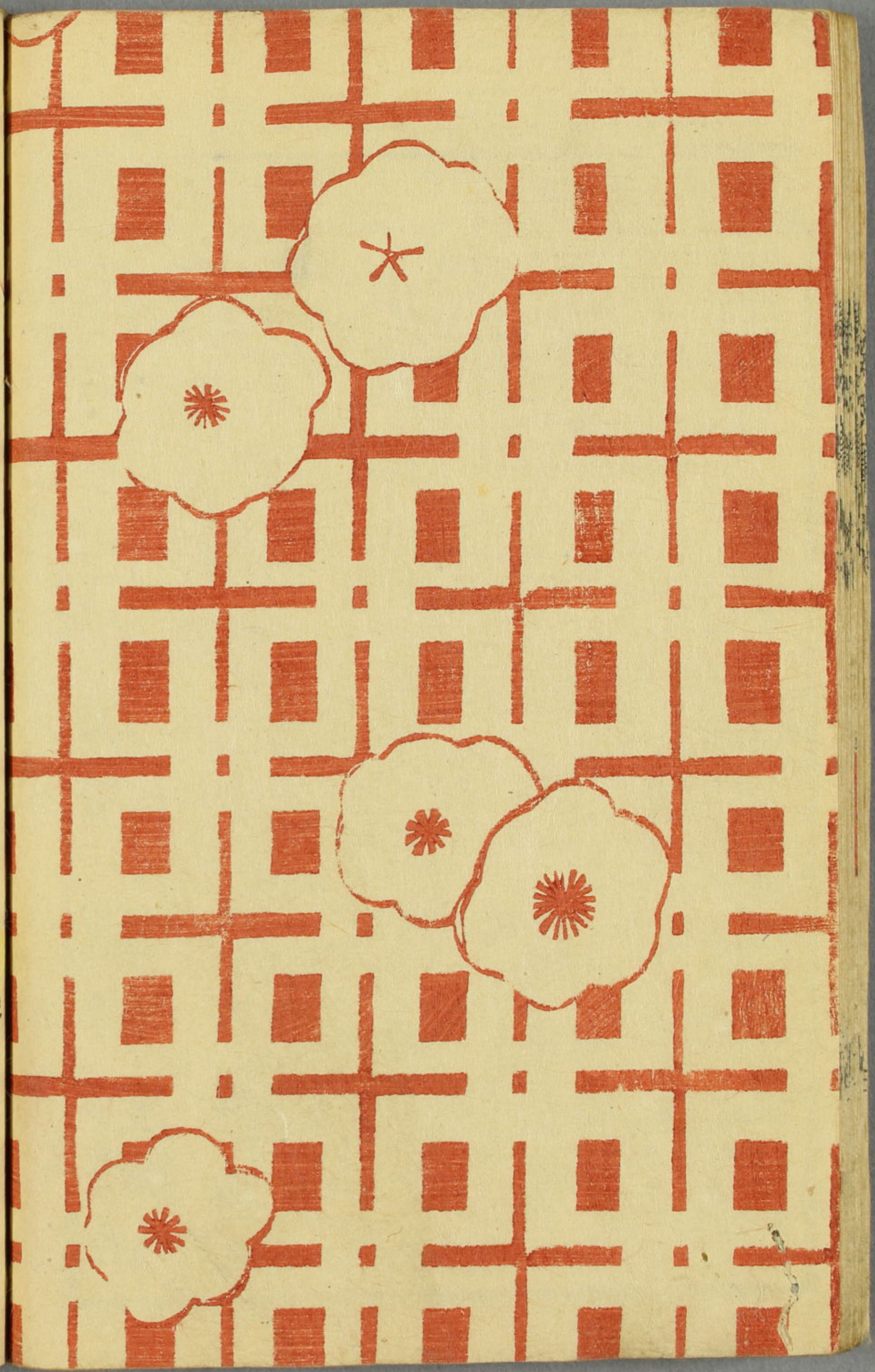


万亭應賀作

外題曲三因魚

上

錦重堂版



# 釋迦八相

## 倭文庫

### 三拾八篇上

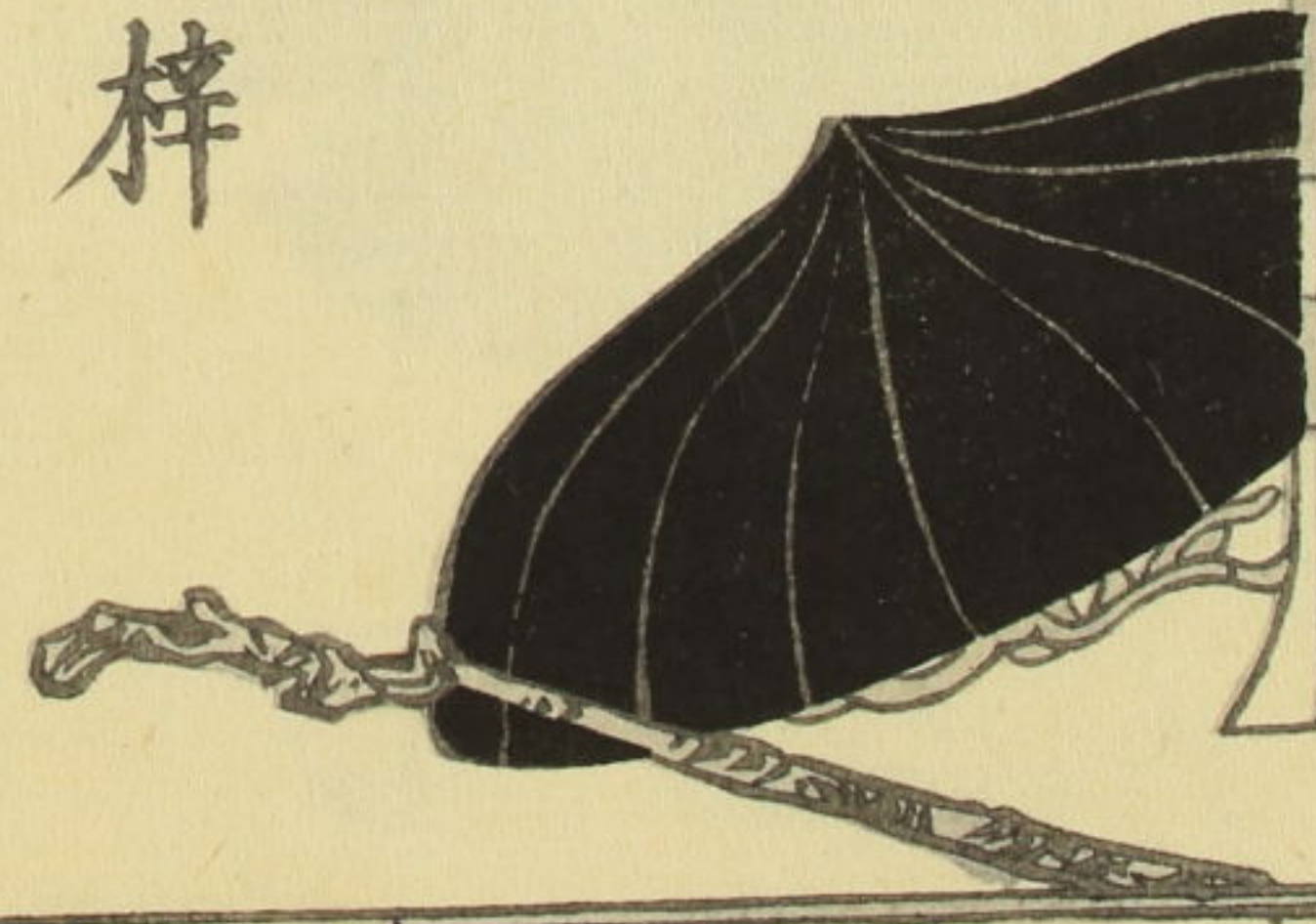
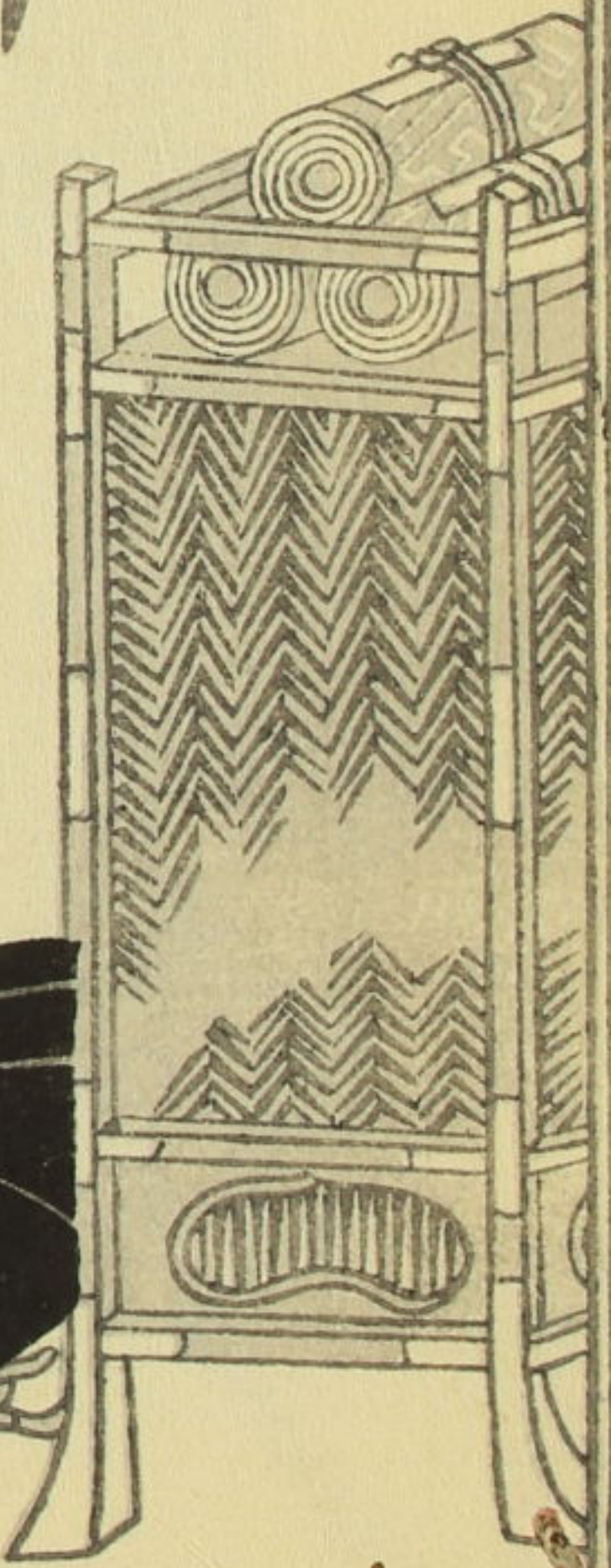
午春 新版

錦重堂

上梓

万亭應賀作  
歌川國貞画

國富出



釋迦八相倭文庫二拾八編

夫道一筋そのよきことも其善所あまのよきところ自道みづかみちすく方かたはあかき仲尼ちゆうとの五常ごとうの綱あつなとりて浮世うきよの漂たふふ人ひとを救すくひ老子らうしの空くうふたえて道みちを勸すすめ天朝てんてうの大神おほいのかみの正直せうぢきとりて人ひとと道みち導みちびつた世尊せそんの因果いんぐわと示あして化くわまされが教くわうの奥生おくせいのあつて聖人せいじん教くわう主しゆのあつてなりし道をみちを近ちかく喻たとふる小教せうくわうの則すなはち原野げんやより小人せうじんの原野げんやに迷まよひて外ちがひをあらはし聖人せいじんの原野げんやを知して明德めいとくその外ちがひのあつて一ひと看官かんくわん是等しとうのさし言こととよと案あんト毎ま一ひとと雨あめ云いふ

安政五戊午年正月吉日 万亭應賀誌

倭文庫七



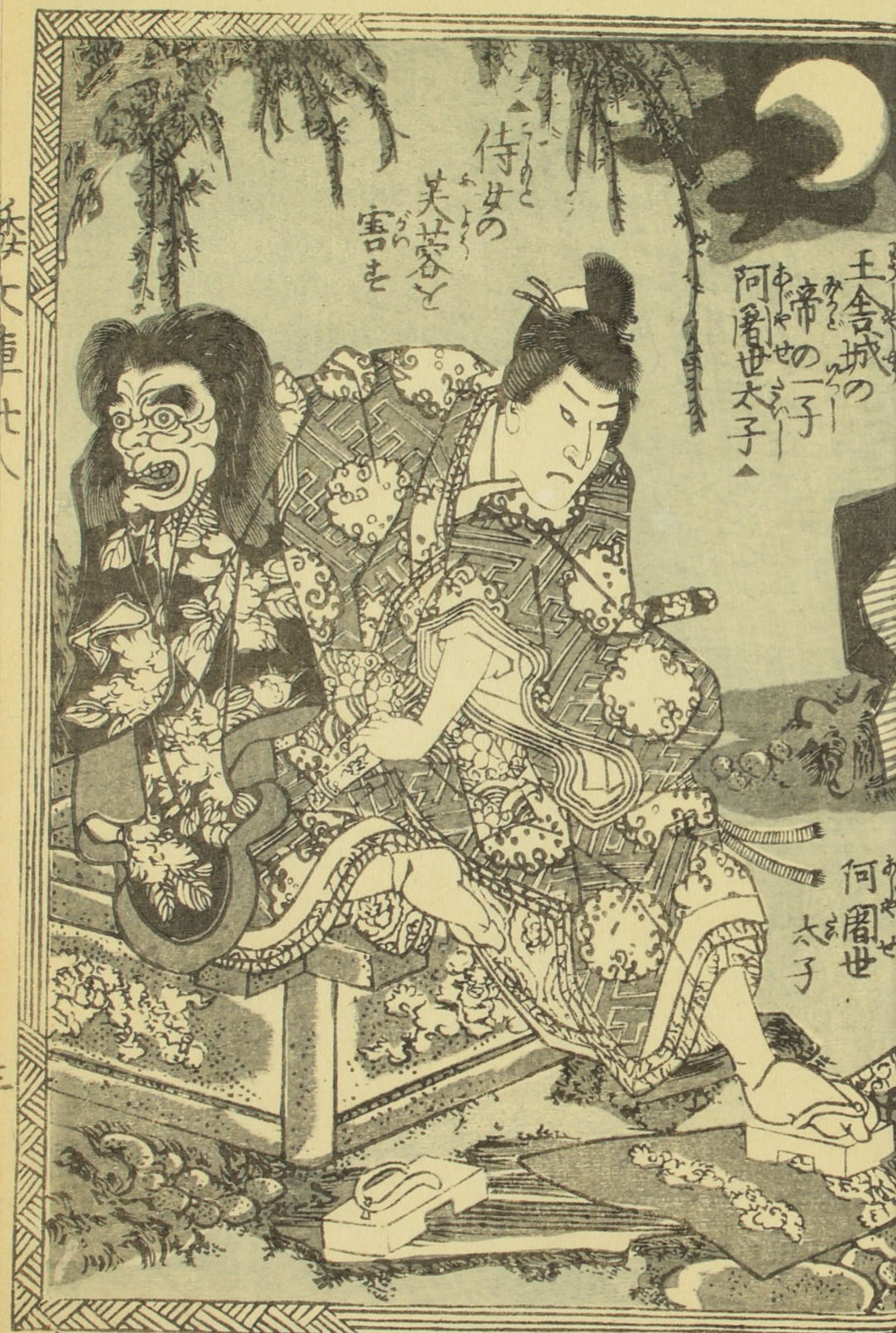
神通邪道の  
司法の性  
妙蹟の  
変身の

切利天の喜見城より  
世尊七宝の櫓を下天  
におよ



如未の  
再の  
后妃

如未









わが身にけり  
 かなのふれと死  
 身のふりかたは  
 よきとふりかたは  
 いちかたのいそがし  
 うやまのあまの  
 そこのいそがし  
 いかたのいそがし  
 つかたのいそがし  
 つかたのいそがし  
 つかたのいそがし  
 つかたのいそがし  
 つかたのいそがし  
 つかたのいそがし

大正十一年

つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは



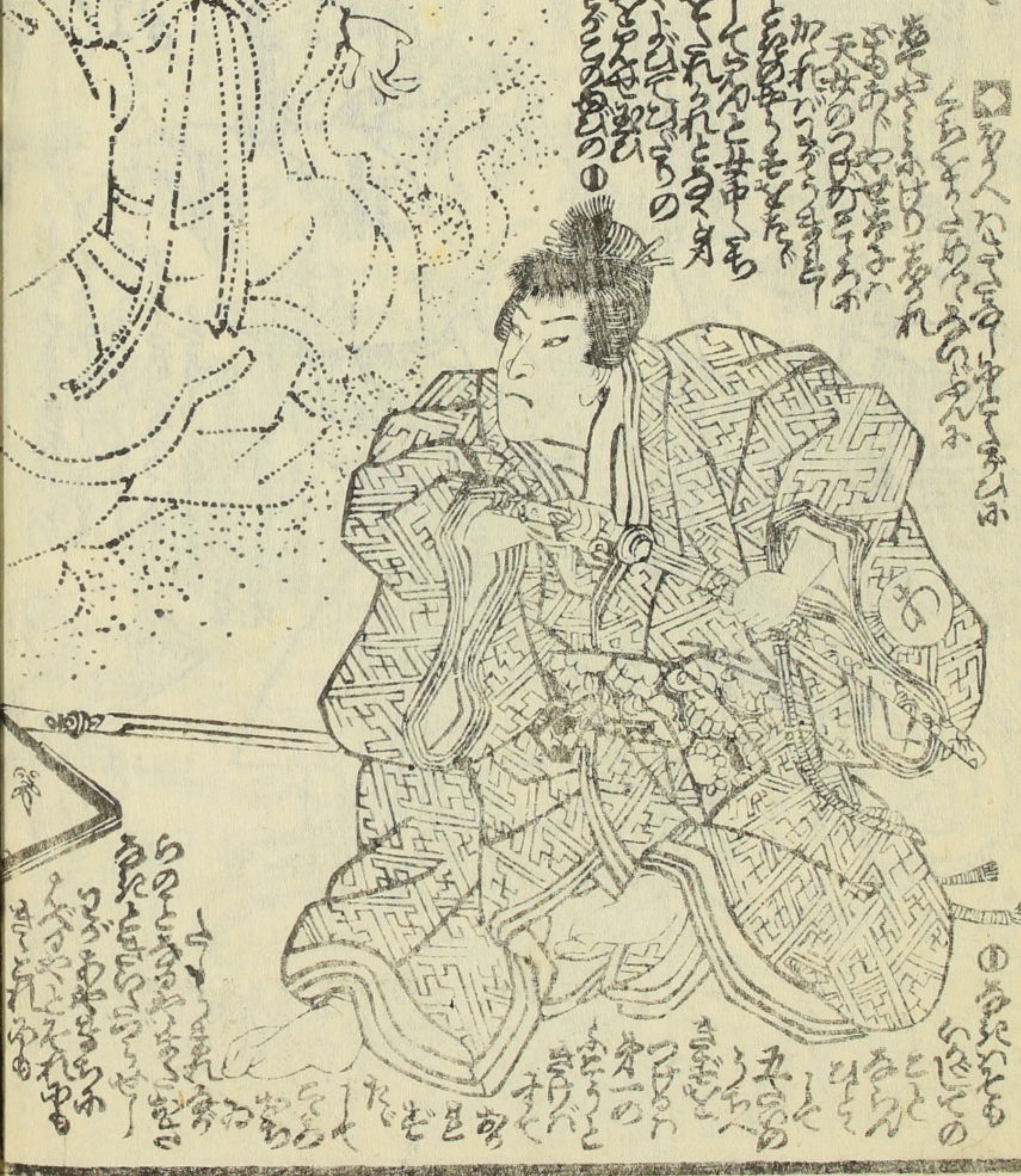
つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは  
 つぎのふりかたは

大正十一年



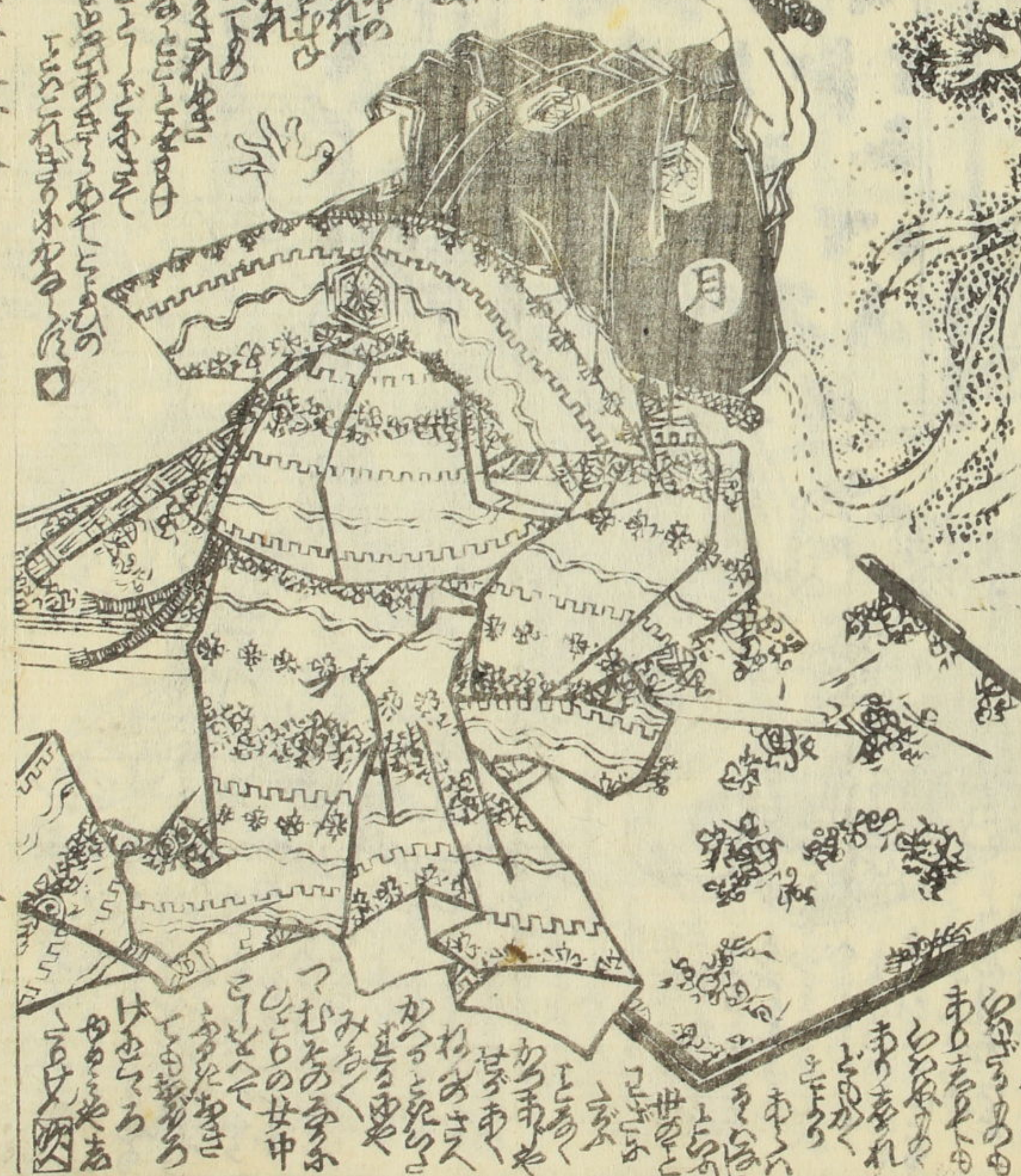


天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは



天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは

天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは



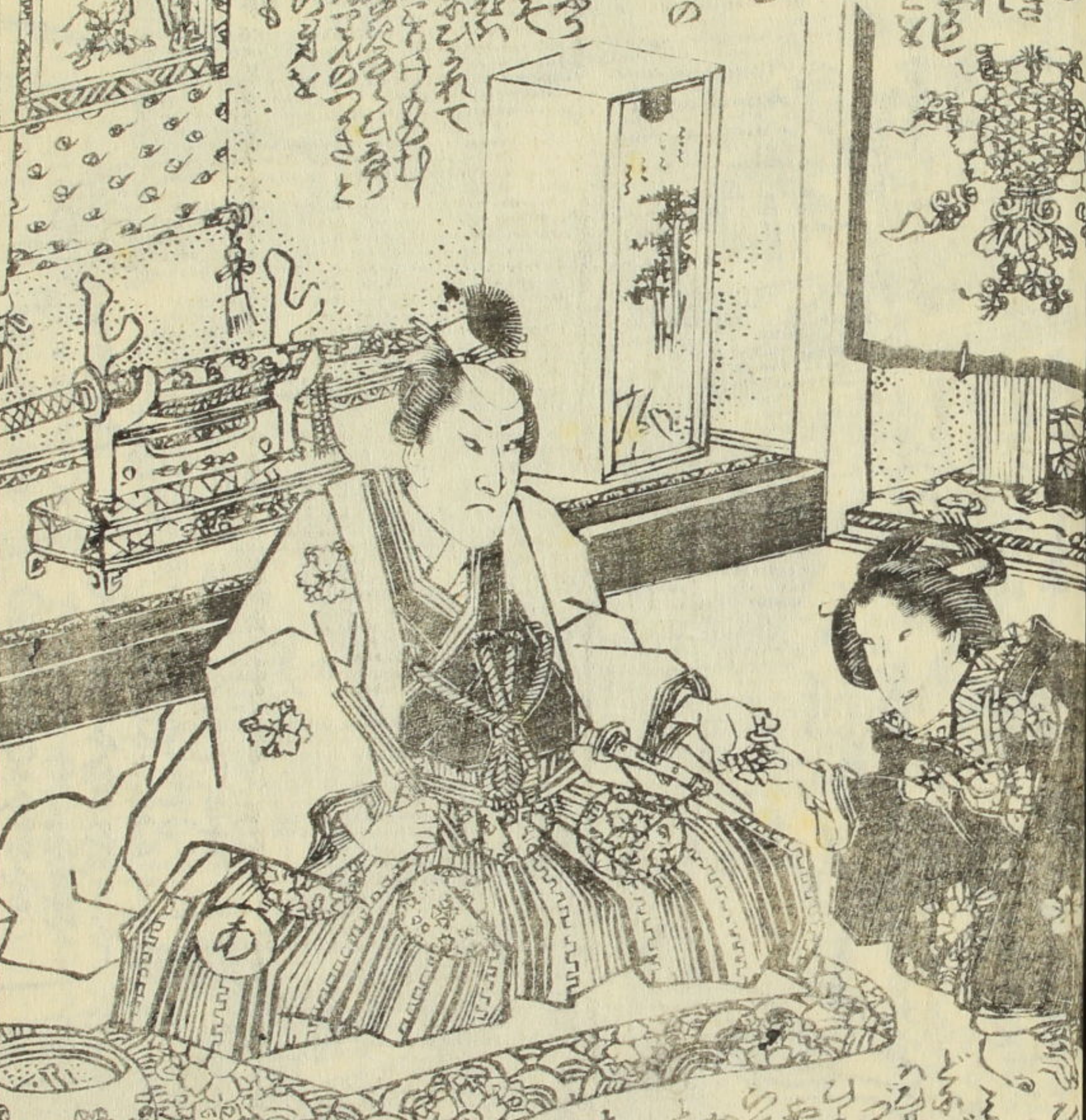
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは  
天竺の神様と云ふは

世のついでに... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい...



さきとちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい...

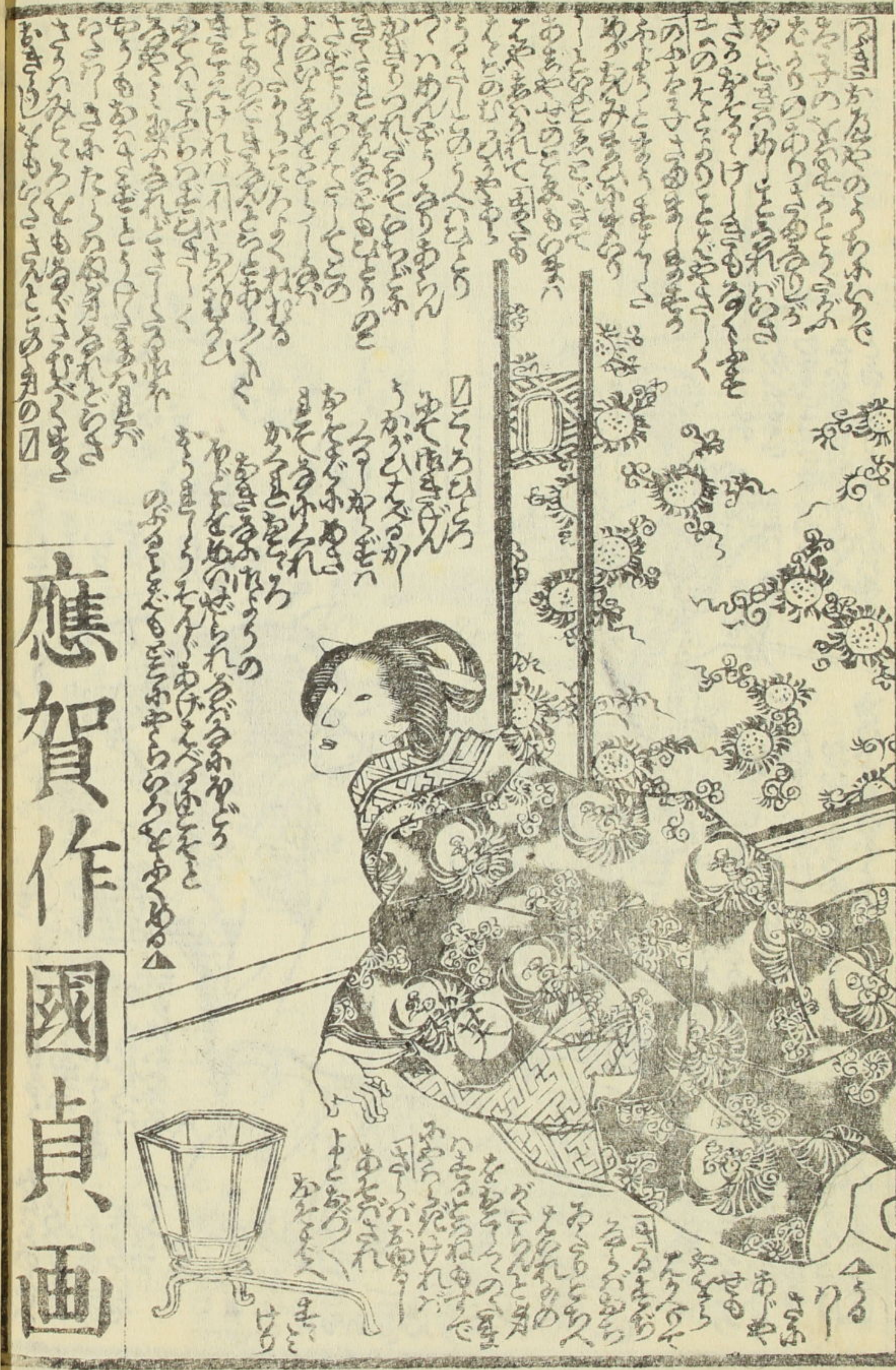
世のついでに... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい...



さきとちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい... ちやんと... つかひ... けいせい... へいぜい...

恋文庫廿八





應賀作國貞画

安政五年戊午新春新板目錄

倭文庫

三十八編 三十九編 万亭應賀作  
四十編 四十一編 一陽齋豊國画

重の井菱漆別小紋

七編 八編 為永春水画

昔語小栗實説

二編 三編 松亭金水画

花山吹百人女郎

二編 柳亭種彦画

大寶御江戸圖

極上摺 奉書六枚半續

常磐津懷中本

初編 二編 三編 四編

重繪州紙本類

上州屋重藏

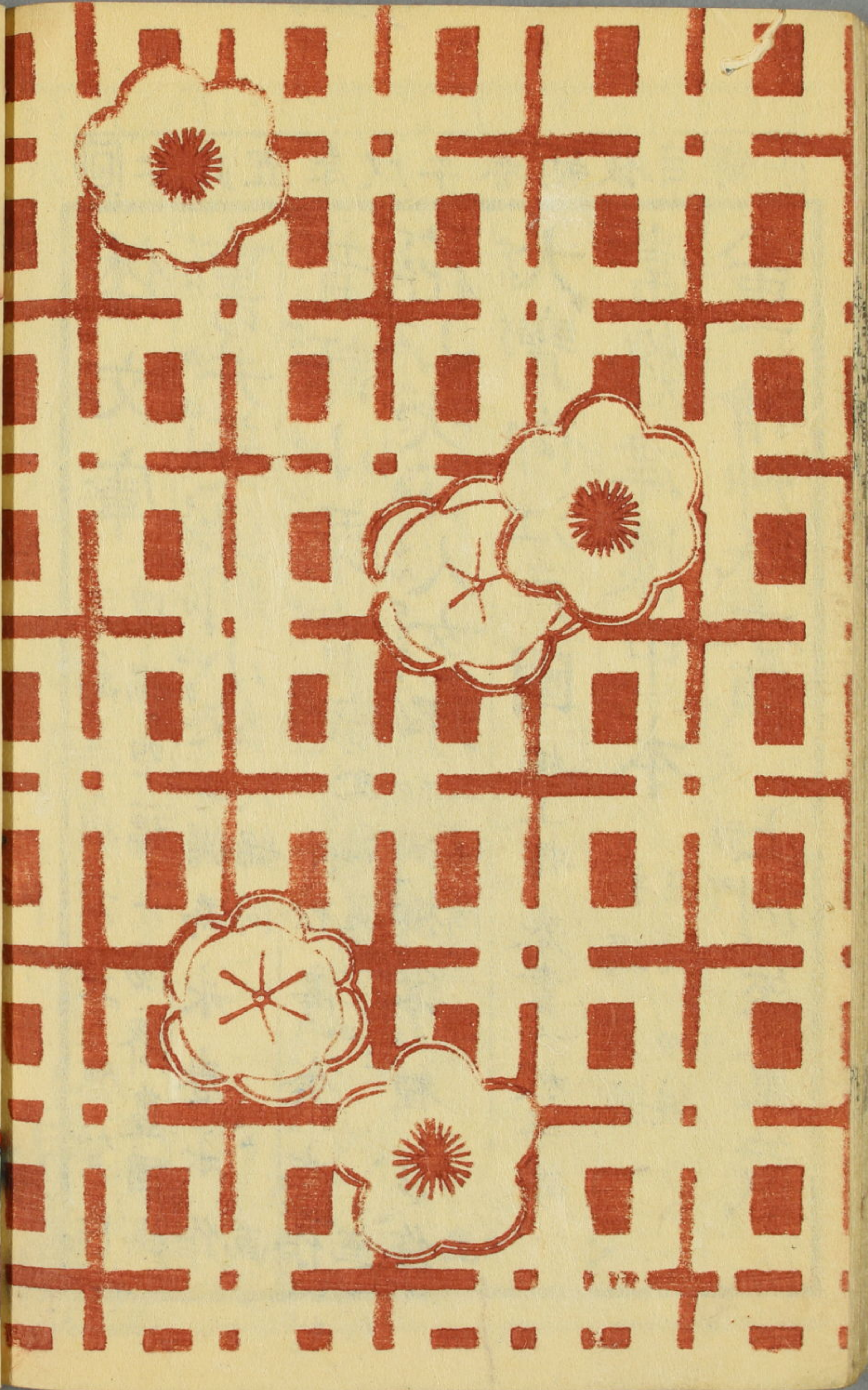
安政五稔  
午春新刊

歌川國貞画

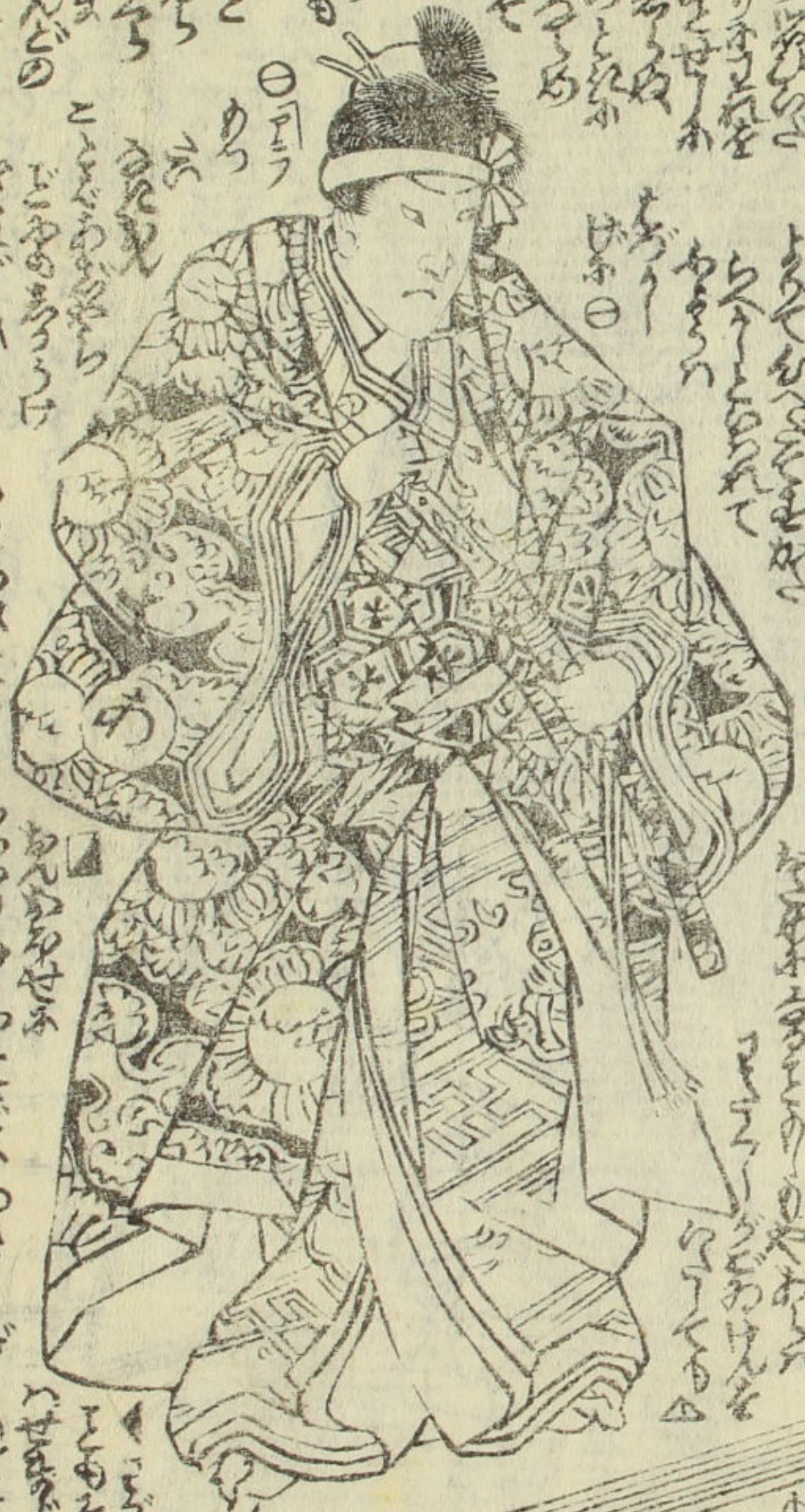
倭文庫拾八編



下



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or list of items related to the illustration. The text is dense and covers most of the page area.



麻呂氏傳世

十一

中  
之  
序

之  
猪  
八  
編  
下

午  
津  
夫  
鼓  
市

怒  
笑  
化

玉  
貞  
画

上  
家  
屋

七  
ん

團  
富  
虫

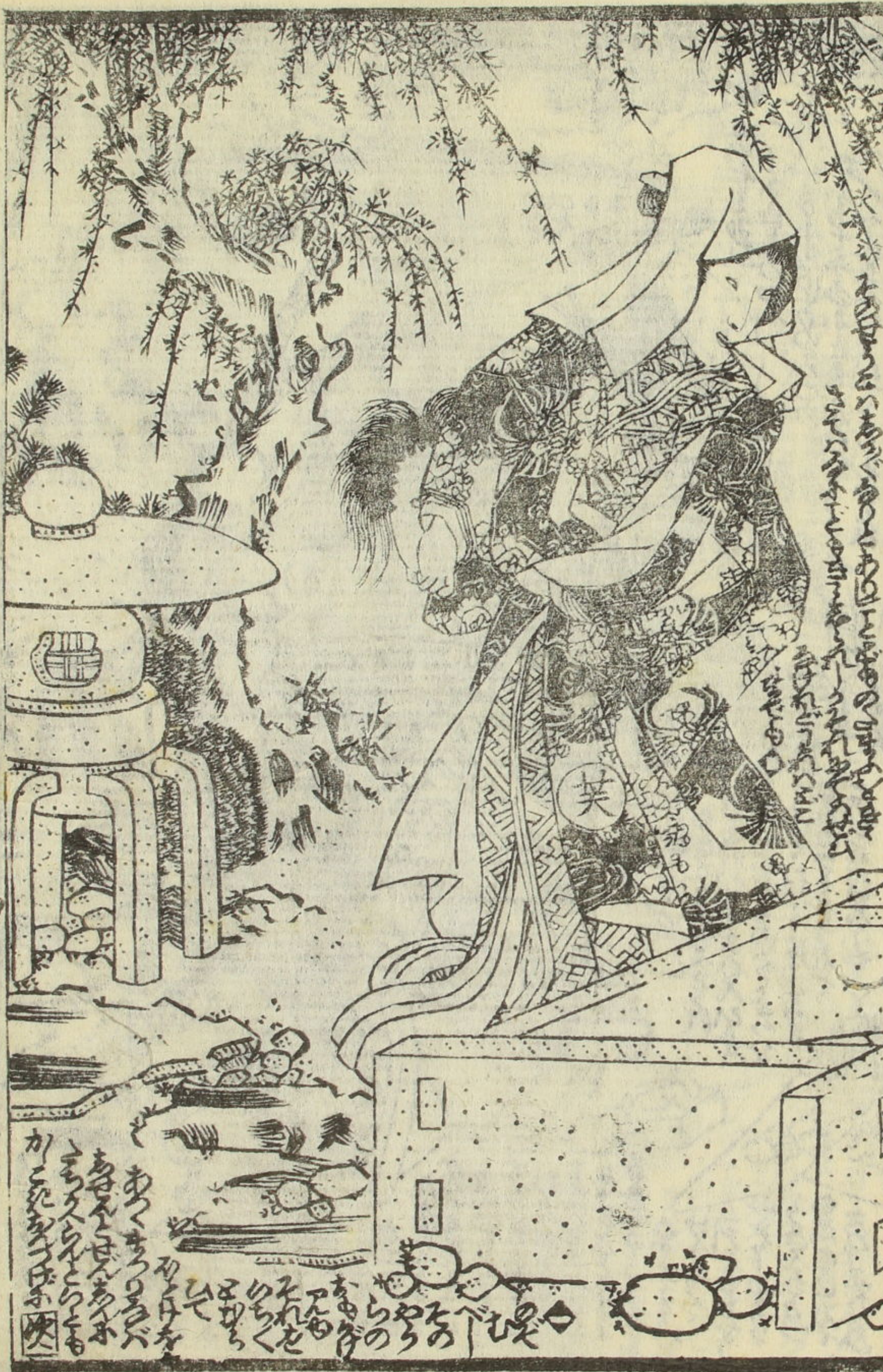


○ 月夜の静けさ  
月夜に静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて

○ 静けさの静けさ  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて

○ 静けさの静けさ  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて

○ 静けさの静けさ  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて



○ 静けさの静けさ  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて  
静けさの静けさありて





Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, likely serving as a preface or commentary for the illustration below.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the right page, providing further commentary or a narrative related to the scene above.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, continuing the commentary or preface.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the left page, concluding the commentary or narrative.





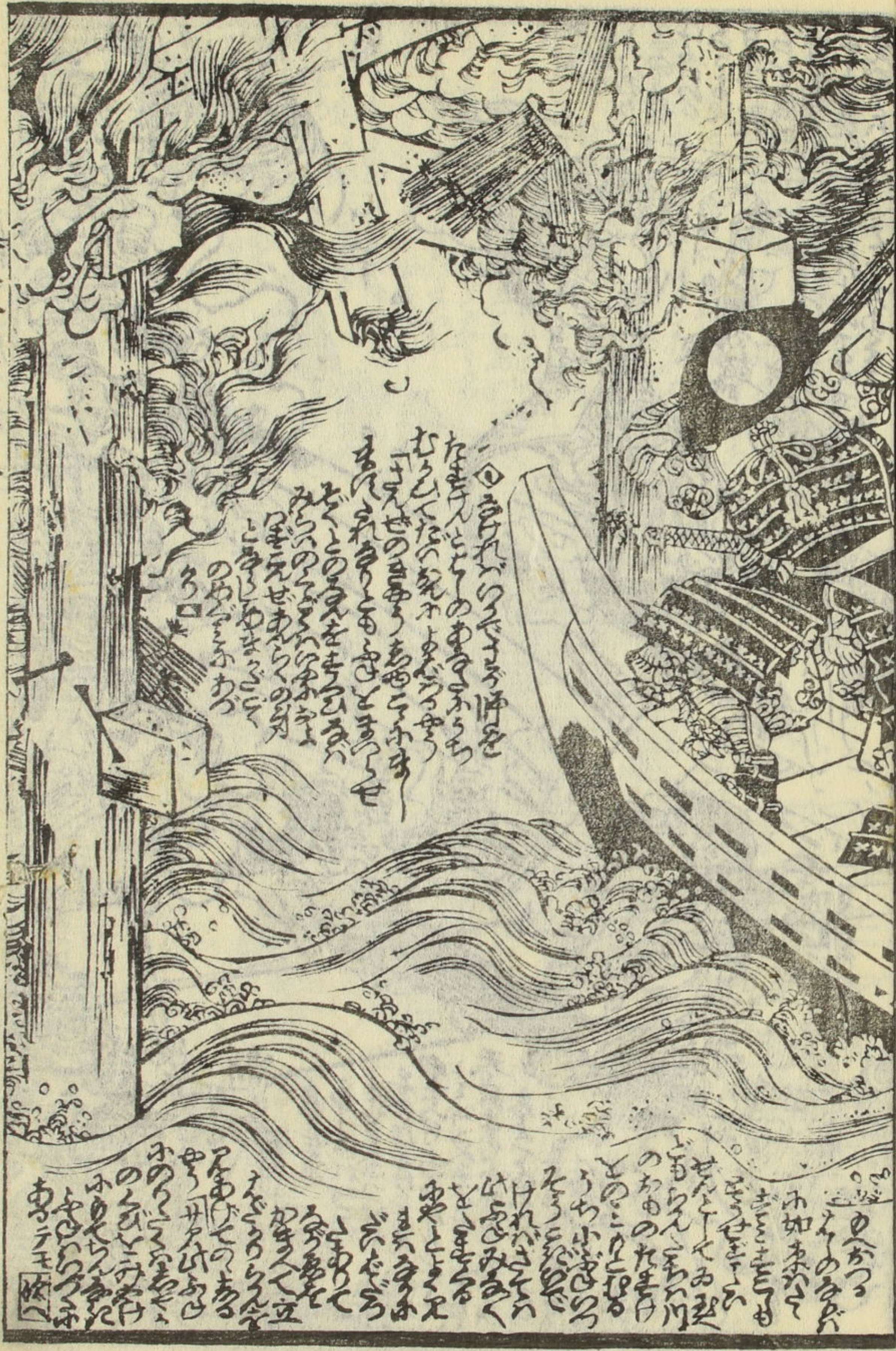
あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす



あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす

あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす

あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす



あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす

あまのさかきとらふちかきとらふあいのこ  
ぞいさらのこころをとおもひのしるこころ  
とまふもたえられしころのこころとす



日也かれ  
 らも魚腹  
 様ひや  
 まよ死  
 せんえと六

此のいから  
 此本のいから  
 ころあまま

天らまむお地天王を  
 あまてんあまの  
 天らまむお地天王を  
 あまてんあまの



此のいから  
 此本のいから  
 ころあまま

天らまむお地天王を  
 あまてんあまの  
 天らまむお地天王を  
 あまてんあまの



此の舟は...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

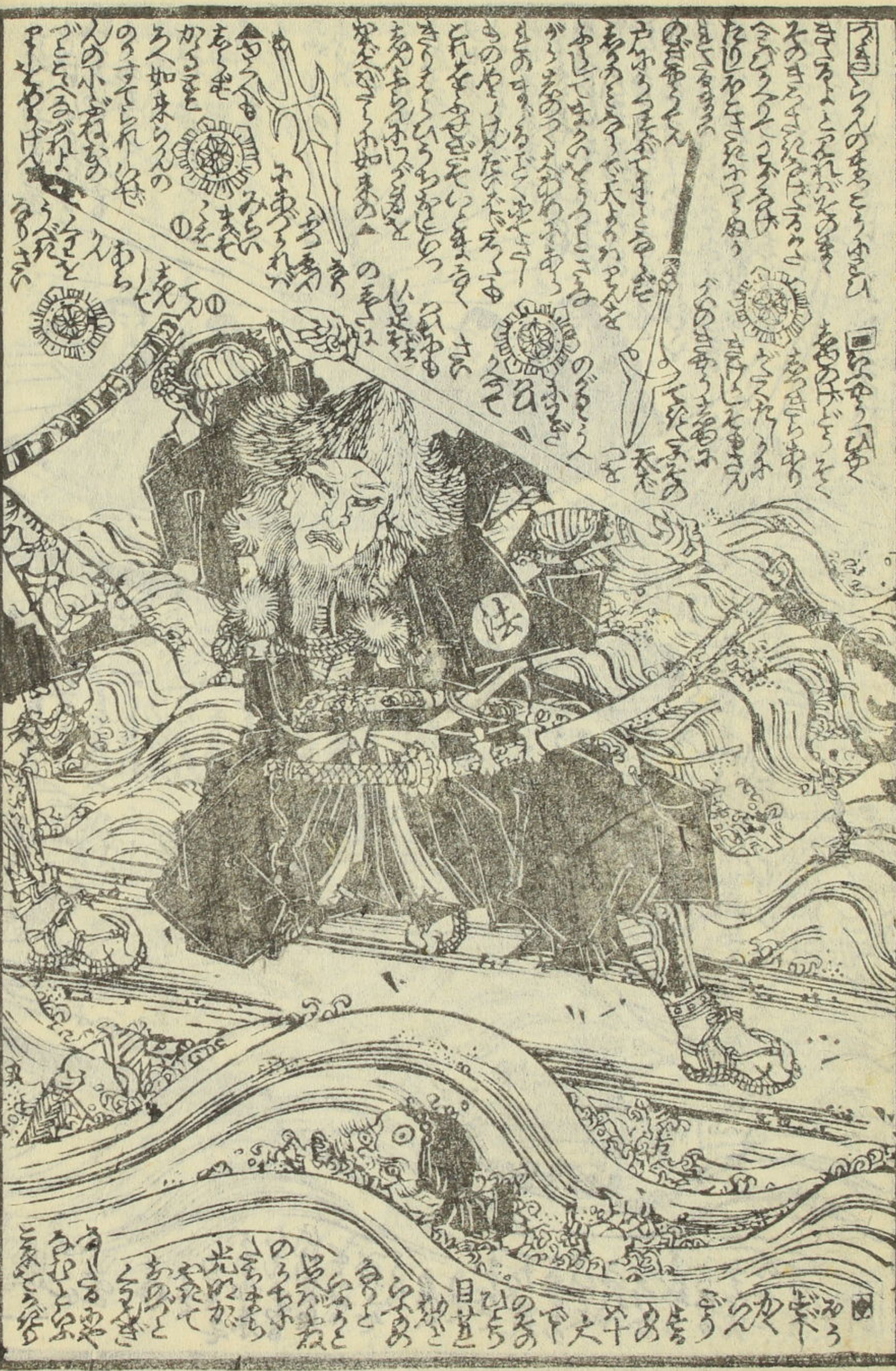
...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...







万亭應賀作 卍 歌川國貞画

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋豊國画

春遊將棋双六 同 歌川貞房画

男女役替双六 同 一陽齋豊國画

武家奉公出世双六 同 同 画

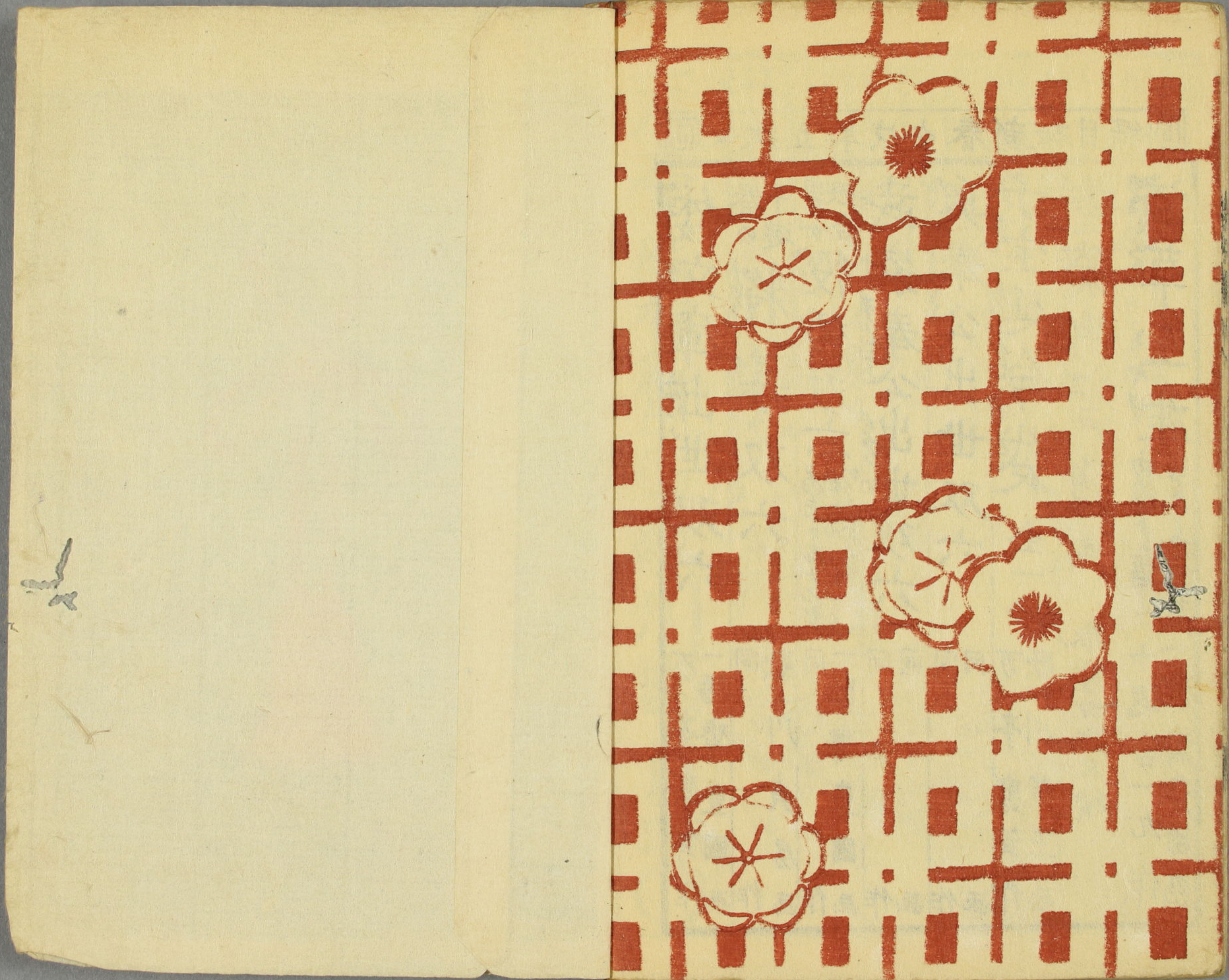
奥奉公出世双六 同 同 画

子宝延命袋 全一冊 万亭應賀作 歌川芳王画

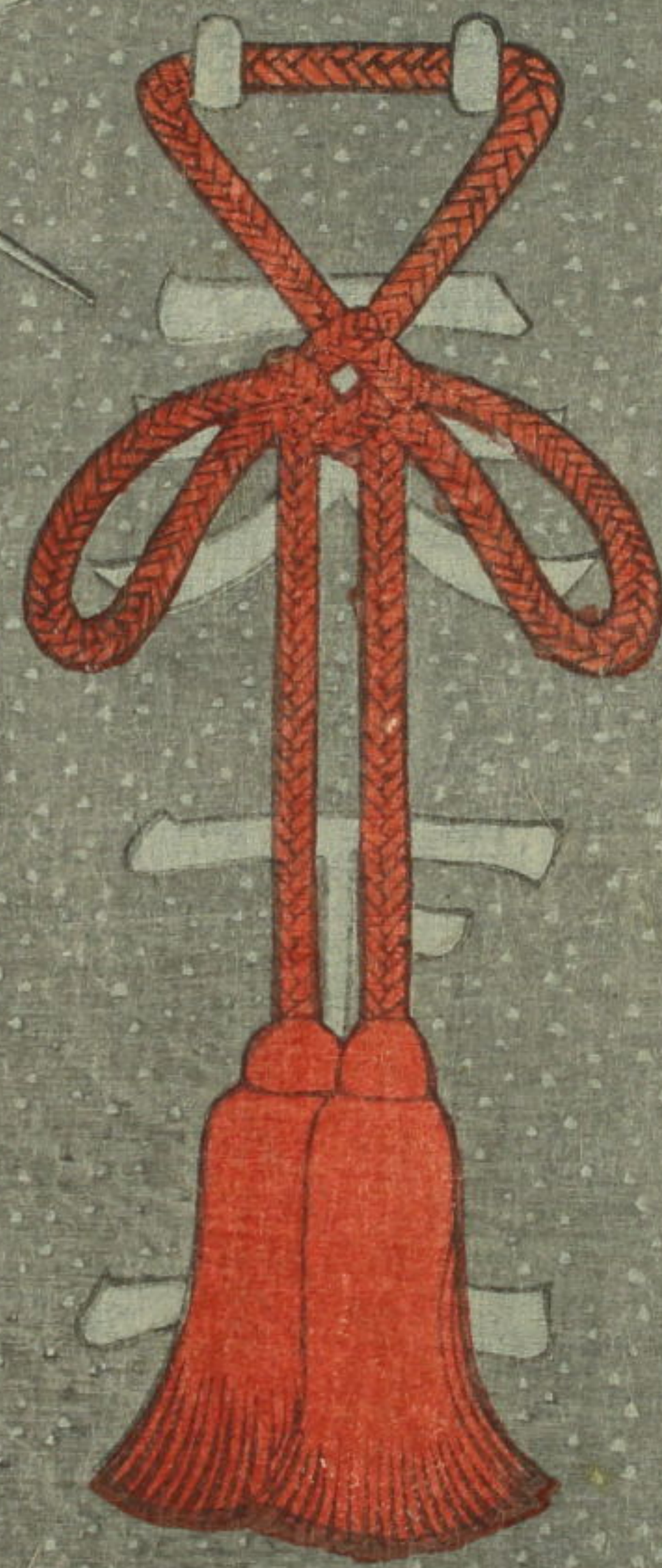
重榮御江戸繪圖 奉書四枚半續

淺草土産 十返舎一九作 一陽齋豊國画

安政五年戊午新春新板目錄



倭文庫三拾八



衣

應賀作

